

The background is a light blue gradient with soft, out-of-focus white and light blue circular bokeh effects. In the top-left corner, there is a cluster of purple hydrangea flowers with green leaves. In the bottom-right corner, there are clusters of blue, purple, and pink hydrangea flowers with green leaves.

六月の俳句

(2021 年 6 月)

目次

歳時記俳句	モーロク俳句	たべもの俳句
1	6	10
＼	＼	＼

< 水無月 >

入梅，梅雨，長雨，霖雨，青葉，深緑，初夏，向夏，向暑，夏秋，麦秋，水無月，衣替え，紫陽花

(宇佐美保幸) メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに
巢鴨とげぬき徒然俳句
<https://blog-haiku.777usami.com>

植田から風の吹き込む東上線
くちなしの花よ時々変心し
ガーベラの真紅の中に夢を見る

南天の花のけなげさ主張せず
気がつけば南天の花吾が庭に

吾が足は湯殿にやせて明易し
東上線川越過ぎて植田かな
群れ泳ぐ目高のワルツ無伴奏

スマホから諏訪内晶子万緑や
大手毬マクドナルドの持ち帰り

幾何学を正しく恐れ額の花
それぞれの家
紫陽花いろ微妙
いくらでも雨を受け止め紫陽花や
紫陽花のカオスの闇に埋もれて



紫陽花の力学雨を受け止めて
紫陽花ややはり差別だ好みあり

夏椿一瞬ぽたり二個三個
空見上げ泰山木の美しく

すれ違う誰も無縁の姫女苑
姫女苑とところ構わず野放図に
丈夫こそそれが自慢の姫女苑

柿青く葉っぱに隠れ雨しのぐ
日々育ち見えはじめたる青柿が
青柿がコロコロ落ちて左派と右派
青柿はころころ左派も右派達も

前線は長々伸びて梅雨空や
牙を剥く豹変河川梅雨豪雨

CDのジャケットまでも梅雨じめり



蛍にもミサイルあるか合戦に
青梅のほんのりピンク尻そろひ
青梅もいずれに赤く染められて

なんのみを実らす黄色瓜の花
果てもなくとかく巻き付き凌霄花
人知れぬ村の薬師に凌霄花
空しのぐ黄橙や凌霄花

ミズゴケは地球を守る尾瀬ヶ原
かたつむり縮んで死んで殻の中
ゆつくりと交通違反かたつむり
夏至近し不要不急の下着買い
キオスクや昭和の記憶夏が来て
バス旅行帰路は眠って夏はじめ



裏側もどこから見ても百合の花
鉄砲百合名前をいかにかえるべき
黒百合は孤独を好み霧纏ひ

同じ場所景色に倦いて立葵
村中といえど数人立葵
句を作り老人日記儼の花

静寂が好きか嫌いか水芭蕉
藻の花や流れてみたし我もまた
目立たなくそして自由に苔の花

未来都市蠅はしつかり生き延びて

せせらぎも渦なし猛威出水川
せせらぎも早期避難を梅雨出水
湿原に綿毛の海をワタスゲが





モーロク俳句

モーロクしうかつでそこつ更衣
 岩とてもモーロク我も更衣
 モーロクしどこか遅れて更衣

ガーベラの色に迷いてモーロクし
 モーロクし傘を忘れて五月雨や
 モーロクし笑って泣いて五月雨や

モーロクしトースト焦がしアマリリス
 死神が来るモーロク黒南風
 睡蓮やモーロクすれど立ち止まり

香水のほのか東京モーロクす
 モーロクしこころ覗かれ金魚草
 モーロクし消息たどる椎の花



時の日も過ぎゆく時間モーロクし
時の日もモーロクすればただ時間

振花やモーロクすればみな捻じれ
緑陰に仰臥瞑目モーロクし
モーロクし計算出来ずみみず這う

モーロクし紫陽花すべて残像に
紫陽花が団地に咲いてモーロクす
紫陽花やいつも多分でモーロクし
紫陽花や体ご自愛モーロクし

ほうたるや恋の記憶もモーロクし
モーロクしされど命の初蛩

モーロクし言葉少なく梅雨に入る
梅雨に入る沼の匂いやモーロクし



モーロクしネジが緩んで梅雨晴間
モーロクし空白見つけ梅雨夕焼
梅雨の蝶モーロク始終見て去りぬ

立葵立つのがつらくモーロクし
えごの花モーロクいつも背後から
モーロクしうつむく日々やえごの花

夏至という思い出すときモーロクし
夏至の雨モーロクすれば匂ひなく
モーロクし守護霊欲しき海月かな

かたつむり鼻息丸くモーロクす
蝸牛モーロクすれば角伸びず
全力のつもりモーロク蝸牛

昼顔にあなた誰ですモーロクし



金魚の尾ゆらぐ一日モーロクし
吾が臓器モーロクすれば儼び生える

モーロクしドクダミの花に憧れる
モーロクし余生うとまし吊忍

モーロクしこれからのこと水羊羹
水ようかん潮目境にモーロクす

モーロクし空の孤独や青蛙



たべもの俳句

茹でがざみ岡山酒またうまし
インゲンを茹でてそのまま夏サラダ

玉葱を切って料理を科学する
玉葱を剥けば宇宙が生まれ来る

しばし待て酸味抜きしてすももかな
雨の朝パセリを添えよ卵焼き
胡麻香る担々うどん梅雨の昼

スタミナも具材いろいろ冷や汁や
故郷の水の味なり水ようかん
たこを煮て柔らか仕上げペンネかな

夕食に刺身こんにゃく梅雨深く



こんにゃくのピリ辛炒め梅雨の入り
卵焼く今朝の火加減梅雨に入る
板わさで蕎麦やのお酒梅雨に入る

さくさくで中はフワフワ穴子井
たれ染みたご飯かき込む穴子井
柿若葉夫婦で食べる他人井

梅雨の星カレーを煮込む赤い鍋
夏野菜何でもカレー自炊かな
夏野菜いろいろ素揚げ揚げ浸し

あじさいやあじさい御前あじさい寺
スープカレー食べて散策額の花

おなじみのナポリタンです父の日に
年金生活マンゴーを憧れる



かりんとうぼりぼり食べる梅雨の雨
タバスコをたっぷりかけて梅雨の昼
梅雨深ししらす干しまでねつとりと
あんパンでお昼を済まし梅雨深し

浅草で元祖葛餅求めけり
どんどん焼きたっぷり刻み夏葱を

進化せずそれが誇りの心太
地下鉄の路線図眺め心太
五味持つ海鞘の刺身で吟醸酒

鴨方のぼつけい美味い冷うどん
自家製の粒あん添えて白玉を
六月尽水無月食べて邪気払い





